高齢者ごみ出し支援事例集　日野市の２事例も紹介

伊藤久雄（認定ＮＰＯ法人まちぽっと理事）

国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センターは 8 月 30 日、高齢者ごみ出し支援事例集を公開した。その概要は以下のとおり、今年 5 月に作成した「高齢者ごみ出し支援ガイドブック」の副読本として作成されたものである。

＜概要＞

国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センターでは、高齢者を対象としたごみ出し支援の制度設計や運用の仕方をわかりやすく説明する「高齢者ごみ出し支援ガイドブック」を作成し、平成 29 年 5 月に公表しました。本事例集は、ガイドブックの副読本として、全国で行われているごみ出し支援の取り組み 12 事例について、自治体、事業者、地域コミュニティの主体別に詳しく紹介するものです。各事例の関係者に、ヒアリング調査を行った結果に基づいて、執筆をしました。自治体や一般廃棄物事業者、地域団体の方々が、ごみ出し支援を新たに始めたり、既に行っている取り組みを改善したりする際に、ガイドブックと合わせて読むことで、参考となる内容になっています。

今回の事例集では次の事例が紹介されている。

◎ 自治体による支援

事例 1　神奈川県横浜市　政令市が直営で行う大規模な「ふれあい収集」

事例 2　埼玉県所沢市　自治体職員が戸別訪問、声掛けも行う「ふれあい収集」でごみ出し安心

事例 3　千葉県我孫子市　体制やマニュアルを整備して、委託によるごみ出し支援・声掛けを行う

事例 4　福岡県大木町　高齢者が活躍！小さな自治体だからできる親身な支援

事例 5　新潟県新潟市　ごみ出しを行う地域団体に支援金を交付して「共助」を支え、育てる

事例 6　千葉県千葉市　行政によるバックアップで 地域にあった継続的な支援を狙う

事例 7　東京都日野市　戸別回収での対策 : 介護ヘルパーがいつでもごみ出しできる仕組み

◎ 事業者による支援

事例 8　有限会社 新津清掃社（新潟県新潟市）収集事業者が地域の社会貢献として、ごみ出し支援に取組む

事例 9　株式会社 日野環境保全（東京都日野市）収集事業者が地域包括支援センターと連携して、声掛け収集を行う

◎ 地域コミュニティによる支援

事例 10　稲毛ファミールハイツ自治会（千葉県千葉市）マンション団地で、ごみ出し支援に取り組むボランティア・グループ

事例 11　森の里自治会（茨城県つくば市）高齢化の進む団地で、自治会が自主的に高齢者の生活支援に取り組む

事例 12　亀田西小学校区コミュニティ協議会（新潟県新潟市）地域と学校の連携による助け合いと多世代コミュニケーション

このように、日野市の事例が２つ紹介されている。そこで、本文より以下紹介する。

＜日野市＞　戸別回収での対策：介護ヘルパーがいつでもごみ出しできる仕組み

■ 取組名称 ハンディキャップシール・ボックス事業

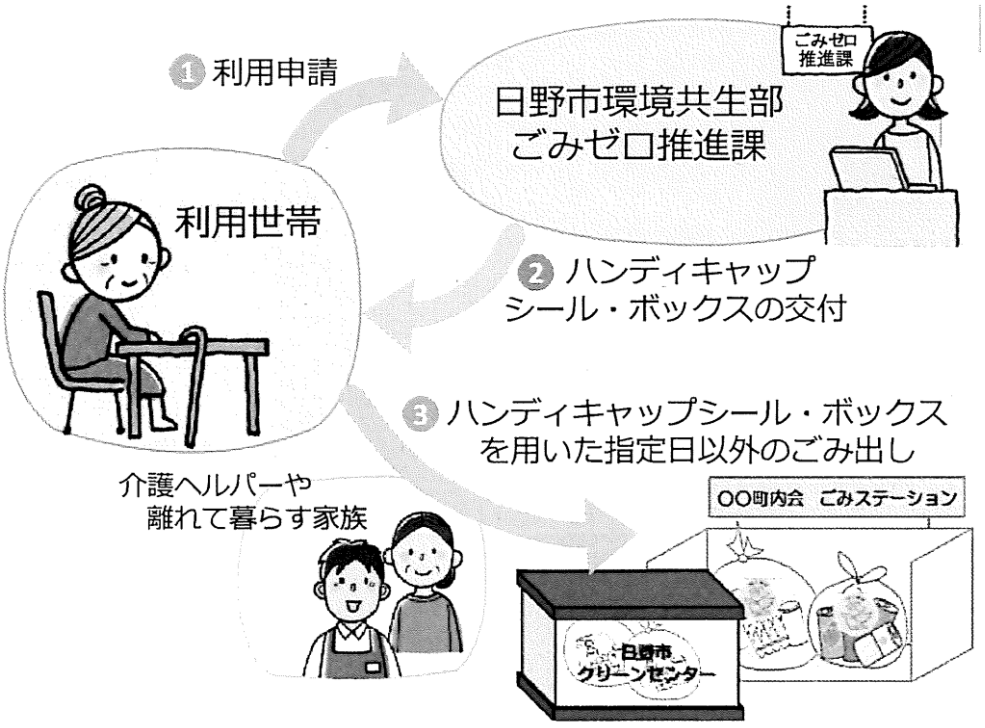
■ 取組主体 日野市環境共生部ごみゼロ推進課

■ 地域人口 184,204 人（日野市 H29.6 現在）

■ 高齢化率 24.0%（日野市 H29.1 現在）

■ 通常の行政回収の方法 民間委託による戸別回収

この事業の特徴は、ごみ出しが難しい高齢者世帯に対応するため、「ハンディキャップシール」または「ハンディキャップボックス」を利用し、ごみ出し指定日以外にもごみ出しができるルールを整備したことである。（詳しくは別紙参照）



＜日野市＞　収集事業者が地域包括支援センターと連携して、声掛け収集を行う

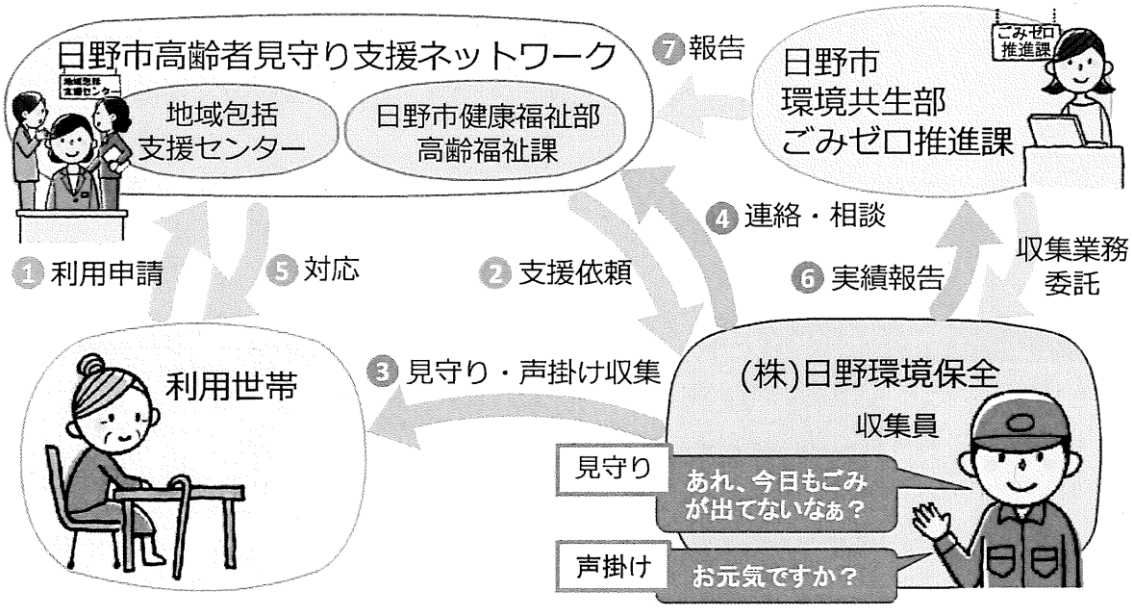
■取組名称見守り収集・声掛け収集

■取組主体株式会社日野環境保全、日野市地域包括支援センター

■行政回収の方法民間委託による戸別回収

この事業の特徴は、可燃ごみと粗大ごみの収集運搬業務を受託する㈱日野県境保全が、日野市高齢者見守り支援ネットワーク（地域住民、店舗や事業所、地域包括支援センターが連携）と連携して行っていることである。（詳しくは別紙）

なおこの取組みは、㈱日野環境保全の社会貢献活動として行われており、委託料には上乗せされていない。



事例として紹介されている自治体あるいは受託事業者による支援や、社会貢献活動としての事業者による支援は、他の自治体でも以前から取り組まれているが、日野市のハンディキャップシール・ボックス事業は他の自治体でも参考になる事例である。事例集によれば、年間 100 件程度の利用実績があるということである。

また、ボランティアグループや自治会、コミュニティ協議会などによる支援も参考になると思われる。たとえば、千葉市稲毛区の稲毛ファミールハイツにおけるごみ出し支援は、稲毛ファミールハイツ自治会のごみ出しグループ「ヤルズの会」が取り組んでいる。これは、このボランティア・グループが独自に始めた高齢者のごみ出しを、その後千葉市が補助事業として行っているものであるため、支援団体として登録し補助金を受けている。利用者の負担は 1 か月 300 円、支援の範囲は玄関先から集積所までのごみ出しである。

今後の超高齢社会の中で、ごみ出し支援と見守り・声かけを結びつけた取組みは広がると思われるが、この事例集などを参考に、地域の実情に相応しい取組みが期待される。

＜関連する研究成果＞

（資源循環・廃棄物研究センターのホームページで紹介されている。なお、小島英子さんと多島良さんは、事例集の執筆者である）

・小島英子，多島良（2017）高齢者ごみ出し支援ガイドブック，国立研究開発法人 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター

・小島英子，多島良，秋山貴，横尾英史（2015）高齢者を対象としたごみ出し支援の取組みに関するアンケート調査結果報告，国立研究開発法人 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター

・小島英子，多島良（2017）自治体による高齢者のごみ出し支援の取り組み―支援タイプ別の事例と特徴―，廃棄物資源循環学会誌，28(3)，pp.177-185

・小島英子，多島良，朱文率，佐藤昌宏，松神秀徳，神保有亮（2015）共助と公助による高齢者のごみ出し支援制度－利用意向に影響する心理的要因－，廃棄物資源循環学会論文誌，26，pp.117-127

・小島英子，多島良，横尾英史（2015）高齢者ごみ出し支援の便益の定量化：親と離れて暮らす子の評価から．第 27 回 廃棄物資源循環学会研究発表会 ，講演集, 75-76

・小島英子（2016）高齢者のごみ出しを巡る課題と支援方策，都市清掃，69(329)，pp.8-13

・多島良(2016) ごみ出し支援の現状と展望．月刊廃棄物, 42(5), pp.4-8

◆高齢者ごみ出し支援事例集（全文）
http://www-cycle.nies.go.jp/jp/report/aging3.pdf

◆高齢者ごみ出し支援ガイドブック
http://www-cycle.nies.go.jp/jp/report/aging2.pdf